

**中期目標・中期計画の進捗状況に係る
令和4年度自己点検・評価報告書**

国立大学法人富山大学

1. 中期目標・中期計画の進捗に係る自己点検・評価

(1)概要

第4期中期目標期間においては、年度評価・年度計画が廃止された一方、全ての中期計画に達成度を測るための評価指標の設定が義務付けられ、4年目終了時評価及び6年目終了時評価においては、この評価指標の達成状況に重点を置いた評価が行われることとなりました。

本学では第4期において、17の中期目標を立て、その達成のために33の中期計画及び87の評価指標を設定しました。さらに評価指標のうち定量的なものには毎年度の計画値を、定性的評価指標には毎年度具体的に取り組む事柄を予め設定し、その達成状況を評価指標毎に自己点検することで進捗管理することとしました。

中期目標・中期計画を高い水準で達成できるよう、この自己点検・評価に継続して取り組んでいきます。

(本学の第4期中期目標・中期計画・評価指標の設定状況)

| 中期目標の構成 | | 中期 目標 | 中期 計画 | 評価指標(KPI) | | |
|-------------------|-----------|----------|----------|-----------|-----|----|
| | | | | 定量的 | 定性的 | |
| I 教育研究の 質の向上 | 1 社会との共創 | 2 | 3 | 7 | 7 | - |
| | 2 教育 | 6 | 9 | 21 | 14 | 7 |
| | 3 研究 | 3 | 6 | 23 | 18 | 5 |
| | 4 その他重要事項 | 1 | 4 | 12 | 10 | 2 |
| II 業務運営の改善及び効率化 | | 2 | 4 | 9 | 4 | 5 |
| III 財務内容の改善 | | 1 | 3 | 6 | 6 | - |
| IV 自己点検・評価及び情報提供 | | 1 | 2 | 7 | 3 | 4 |
| V その他業務運営に関する重要事項 | | 1 | 2 | 2 | - | 2 |
| 計 | | 17 | 33 | 87 | 62 | 25 |

(2)点検の対象

全評価指標 87 (うち定量的指標 62, 定性的指標 25)

(3)点検の観点

中期計画(評価指標単位)の進捗状況

- ・毎年度の計画値, 取組計画の達成状況
- ・今後の計画の妥当性 等

(4)実施方法・手順

【1】各担当理事・担当課において、評価指標単位で、自己点検シートを記載

【2】計画・評価室において、自己点検シートをレビュー(検証)し、結果を各担当理事・担当課にフィードバック

【3】レビューを踏まえ、次年度の取組内容等について再検討し、自己点検シートを再提出

【4】計画・評価委員会において確認

【5】教育研究評議会、経営協議会、役員会での審議を経て承認

2. 令和4年度自己点検・評価結果

(1) 概要

| 中期目標の構成 | | 令和4年度 評価指標（KPI）の自己点検結果 | | | | | | | | | | | |
|-------------------|-----------|------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---|----|---|
| | | 合計 | | | 定量的 | | | 定性的 | | | | | |
| | | ◎ 特 筆 | ○ 順 調 | △ 遅 れ | ◎ 特 筆 | ○ 順 調 | △ 遅 れ | ◎ 特 筆 | ○ 順 調 | △ 遅 れ | | | |
| I 教育研究 の質の向上 | 1 社会との共創 | 7 | 2 | 4 | 1 | 7 | 2 | 4 | 1 | - | - | - | - |
| | 2 教育 | 21 | 2 | 18 | 1 | 14 | 2 | 11 | 1 | 7 | 0 | 7 | 0 |
| | 3 研究 | 23 | 3 | 16 | 4 | 18 | 3 | 12 | 3 | 5 | 0 | 4 | 1 |
| | 4 その他重要事項 | 12 | 0 | 9 | 3 | 10 | 0 | 8 | 2 | 2 | 0 | 1 | 1 |
| II 業務運営の改善及び効率化 | | 9 | 1 | 8 | 0 | 4 | 1 | 3 | 0 | 5 | 0 | 5 | 0 |
| III 財務内容の改善 | | 6 | 2 | 4 | 0 | 6 | 2 | 4 | 0 | - | - | - | - |
| IV 自己点検・評価及び情報提供 | | 7 | 0 | 6 | 1 | 3 | 0 | 2 | 1 | 4 | 0 | 4 | 0 |
| V その他業務運営に関する重要事項 | | 2 | 0 | 2 | 0 | - | - | - | - | 2 | 0 | 2 | 0 |
| 小計 | | <u>87</u> | 10 | 67 | 10 | <u>62</u> | 10 | 44 | 8 | <u>25</u> | 0 | 23 | 2 |

(評価指標の自己評価)

◎…特筆すべき進捗状況にある

○…順調に進捗している

△…進捗に遅れが見られる(令和4年度の計画を達成できなかった)

(2) 評価指標の進捗状況

評価指標の進捗状況については次ページ以降に記載しています。

(3) 「データ集」

定量的指標の進捗状況と今後の計画値をわかりやすく可視化するための「自己点検データ集」を別途作成しています。

中期目標・中期計画の進捗状況に係る令和4年度自己点検・評価

※定量的指標の令和4年度実績(数値の詳細)は別添「自己点検データ集」をご覧ください

評価指標の自己評価

- ◎…特筆すべき進捗状況にある
- …順調に進捗している
- △…進捗が遅れが見られる(R4年度の計画が未達成)

I 教育研究の質の向上 (1)社会との共創

中期目標【1】 人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業(農林水産業、製造業、サービス産業等)の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①

| 中期計画 | | | 評価指標 | | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 | |
|---------------------|---|---|------|-------|--|--|---|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 1-1 地域の産業・文化の発展への貢献 | ① 本学の研究の強み・特色であり地域の中核的産業分野でもある薬・ヘルスケア、軽金属及びカーボンニュートラルの領域を中心に、地方自治体及び地域の産業界の政策等決定及び課題解決に積極的に関与し、協働することにより、地域振興に貢献する。 | ①ア 教育・研究活動等の成果や本学が果たしている機能・役割についての情報発信により増加が期待される地域からの政策等決定・課題解決への関与依頼に対し、積極的に応えるよう教員に要請することで、教員の地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画を推進する。 | 1 | 定量的指標 | ①アA…地域の自治体・経済団体等の会議・審議会等への参画件数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間平均件数から10%増を達成) [第4期平均:420.6件以上] | [令和4年度:516件] 今後、県内の自治体を対象に、委員の候補者について研究推進部に相談対応できる旨の案内文書を発出することで、より大学に対して相談しやすい体制を整備する。 | ○ |
| | ② 国立大学において数少ない芸術系学部を有し、人文科学・社会科学系学部と連携している特色を生かし、文化財の保護・活用拠点として文化の発展に貢献する | ②ア 地域の文化資源を調査、研究資料の公開・発表や、文化資源の魅力を発信するプロジェクトを実施、伝統的な技術と現代のデジタル技術を融合した手法による文化財の修復・保存を行い、成果を公開する。 | 2 | 定量的指標 | ②アA…地域の文化資源の調査・研究、保護・活用に係る取組成果を公開する発表会、展覧会、報告書等の件数(第4期中期目標期間中の平均件数を、第3期中期目標期間平均件数より増加) [第4期平均:7.0件以上] | [令和4年度:6件] 以下の6件の成果を上げた。 ・高岡御車山保存修理事業における重要有形民俗文化財の適切な修理 ・高岡御車山保存修理事業における富山大学の学術指導 ・二上射水神社面の復元新調 ・【展覧会】高岡と日本近代の蠟型鑄造展-大郷コレクション青銅花器と須賀松園工房の蠟原型 ・産学官の地域活性化活動「高岡クラフト市場街」がふるさとイベント大賞(内閣総理大臣賞)、2022年度グッドデザイン賞を受賞 ・伝統的組構造補強修復に関する論文を国際学会にて発表(CEAC2023) | ○ |

中期目標【2】 我が国の持続的な発展を志向し、目指すべき社会を見据えつつ、創出される膨大な知的資産が有する潜在的可能性を見極め、その価値を社会に対して積極的に発信することで社会からの人的・財政的投資を呼び込み、教育研究を高度化する好循環システムを構築する。③

| 中期計画 | | | | | 評価指標 | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 |
|----------------|---|---|-----|-------|---|---|------|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 2-1 知的財産の発掘 | ① 総合大学ならではの多様な研究成果の中から、本学の研究の強み・特色であり地域の中核的産業分野でもある薬・ヘルスケア、軽金属及びカーボンニュートラルの領域を中心に、独創的な知的財産を発掘し、権利化や社会実装を推進する。 | ①ア 対外発表前の研究成果から特許化できるシーズを発掘することにより、研究成果の特許化を進める。 | 3 | 定量的指標 | ①アA…単独及び共同の特許出願件数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間平均件数から7%増を達成) [最終年度までに54件以上] | [令和4年度:55件] 知的財産の基礎知識に関する学内セミナーを開催し教職員の意識啓発を行ったことにより、発明の届出が増加し、 55件の特許を出願し、最終目標値を達成した。 次年度以降も継続してこの水準の維持を目指す。 | ◎ |
| | | ①イ 保有する知的財産の評価を適切に行うなど、知的財産戦略を再整備する。 | 4 | 定量的指標 | ①イA…特許実施許諾収入金額(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間平均金額から10%増を達成) [最終年度までに24,514千円以上] | [令和4年度:10,994千円] 令和4年度に収入が確定したマイルストーン(医薬品の開発の進捗に伴って発生する支払金)の収入が翌年度となったため計画値を達成できなかったが、令和5年度には令和4年度分を合わせた2年間の計画値を大きく上回る予定である。 | △ |
| 2-2 産学官連携活動の推進 | ① 本学の研究の強み・特色であり地域の中核的産業分野でもある薬・ヘルスケア、軽金属及びカーボンニュートラルの領域を中心に、自治体・企業・高等教育機関との組織対組織の連携を推進し、研究成果を社会に還元・発信・実装する。 | ①ア 組織的連携協定の締結件数を増加させるため、複数の共同研究実績がある企業・自治体に協定締結を提案する。 | 5 | 定量的指標 | ①アA…組織的連携協定の締結件数(第4期中期目標期間中に新規の協定を6件締結) [第4期計6件以上] | [令和4年度:4件] ・熊本大学及び本学で編成する先進軽金属材料国際研究機構及び本学先進アルミニウム国際研究センターと関係する軽金属関係の業界団体等と4件の組織的連携協定を締結した。 | ○ |
| | | ①イ 共同研究・受託研究の受入額を増加させるため、共同研究契約締結時の積算・提案方式による交渉、公募型受託研究の研究IRを活用したURAによる積極的な関与などにより、採択支援を強化する。 | 6 | 定量的指標 | ①イA…共同研究・受託研究の受入額(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間平均の10.4億円(令和2年度末時点)から10%増) [最終年度までに1,151百万円以上] | [令和4年度:1,258百万円] ・積算・提案方式による締結の推進及び間接経費増額(直接経費の30%以上)の規程を改正し、共同研究費の増加を図った。 ・企業ニーズに合わせて大学の研究成果を紹介することや、シーズ集の拡充により、企業との接点を増やし、研究資金の獲得増につなげたこと等により、 1,258百万円の共同研究・受託研究を受け入れ、最終目標値を達成した。 次年度以降も継続してこの水準の維持を目指す。 | ◎ |
| | | ①ウ 教職員・学生による本学発起案件数を増加させるため、学内の啓発活動の推進、起業希望者支援を充実させる。 | 7 | 定量的指標 | ①ウA…教職員・学生による本学発ベンチャー認定件数(第4期中期目標期間中に3件認定) [第4期中に3件以上] | [令和4年度:1件] LABTECHS株式会社(仁井見英樹 学術研究部医学系・准教授)を富山大学発ベンチャー第1号として認定した。 | ○ |

I 教育研究の質の向上 (2)教育

中期目標【3】 国や社会、それを取り巻く国際社会の変化に応じて、求められる人材を育成するため、柔軟かつ機動的に教育プログラムや教育研究組織の改編・整備を推進することにより、需要と供給のマッチングを図る。④

| 中期計画 | | | 評価指標 | | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 | |
|----------------------------|---|---|------|-------|--|--|---|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 3-1 社会ニーズに対応した教育研究組織の改編・整備 | ① 国や社会、それを取り巻く国際社会の変化に応じて、必要な教育プログラム・教育研究組織の改編・整備を実施し、人間と自然に対する理解を持ち、社会から求められる能力を身に付けた人材を育成する。 学部においては、普遍的スキル・リテラシー、専門性及び主体的学修態度を身に付け、地域等の課題を解決できる人材の育成体制の構築を目指す。 大学院においては、地域に留まらず我が国全体又は世界での活躍を視野に、高度な専門性と高い基盤的能力を生かして、アカデミアだけでなく産業界、官公庁等においても活躍できる人材の育成体制の構築を目指す。 | ①ア 学部においては、地域の産業構造や社会ニーズを意識した検証を行った上で、Society 5.0に対応する数理・データサイエンス・AI教育や現代的な課題解決能力を身に付けさせる教育プログラムの改編や教育研究組織の改組を計画し、実施する。 | 8 | 定性的指標 | ①アA…全学部組織の検証及び対応の状況(地域の産業構造や社会ニーズを意識した学部組織・カリキュラムとなっているかの検証レポートの作成及び対応計画の策定・実施(第4期中期目標期間中に1回)) | ・社会ニーズに対応した課題解決型の人材を育成するために、経済学部及び理学部の改組に向けて検討した結果、既存の学科を再編し、令和6年度に経済学部経営学科及び理学部理学科を設置する構想とした。 ・検証レポートについては、学部組織に関する効果的な検証が可能な事項の設定に向けて検討を行い、進捗は順調である。 | ○ |
| | | ①イ 大学院においては、修了後の多様なフィールドでの活躍を想定した検証を行った上で、異分野の人材との協働や企業等での専門性を生かした就業体験等に対応する教育プログラムの改編や教育研究組織の改組を計画し、実施する。 | 9 | 定性的指標 | ①イA…全大学院組織の検証及び対応の状況(多様なフィールドで活躍できる人材の育成を想定した大学院組織・カリキュラムとなっているかの検証レポートの作成及び対応計画の策定・実施(第4期中期目標期間中に1回)) | ・令和4年度に設置した大学院修士課程に接続する大学院博士課程の組織について検討した結果、現在の大学院博士課程/博士後期課程を再編し、令和6年度に総合医薬学専攻、理工学専攻及び医薬理工学環に、博士課程/博士後期課程を新たに設置する構想とした。 ・検証レポートについては、大学院組織に関する効果的な検証が可能な事項の設定に向けて検討を行い、進捗は順調である。 | ○ |

中期目標【4】 特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。(学士課程)⑥

| 中期計画 | | | 評価指標 | | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 | |
|----------------------------|--|--|------|-------|--|---|---|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 4-1 課題設定・解決力を身に付けさせる枠組みの整備 | ① 社会変容に伴う多様なニーズに対応するため、柔軟で複眼的思考力を備え、自ら問題を発見し、解決に導く人材を育成する。 | ①ア 学生に、自発的に問題発見から複眼的・理論的な分析、問題解決までを導く力を身に付けさせるため、アクティブ・ラーニング型授業の実施割合を充実させる。 | 10 | 定量的指標 | ①アA…アクティブ・ラーニング型授業の実施割合(全授業のうち、6割以上でアクティブ・ラーニング型授業を実施することを、毎年度継続) [第4期中毎年度60%以上] | [令和4年度:72%] シラバス作成マニュアルに、アクティブ・ラーニングの推進について明記することで導入を促進をした。また、実施状況を教育推進センター会議で各学部等に共有するとともに、更なる導入を呼びかけた。 | ○ |
| | | ①イ 学生が能力の修得状況を自身で把握できる仕組みづくりのため、学生が各科目の修得状況に応じて身に付けることができた能力を可視化するシステム「積算能力評価(レーダーチャート)」を導入し、学修の振り返りを促し、学生の意識的学修につなげる。 | 11 | 定性的指標 | ①イA…本学のDP(ディプロマ・ポリシー)における5つの評価項目の達成度を可視化したレーダーチャートの全学的導入と学生の個別面談におけるレーダーチャートの活用状況(レーダーチャートは令和4年度中に試行し、令和6年度に本格的に導入する。合わせて、個別面談において、レーダーチャートを全学的に活用することを令和6年度に制度化する。) | 全在生を対象に、科目ごとの重みづけや各学部の標準的なレーダーチャートを設定したことで、レーダーチャートを出力・活用できるようになった。 学修ポートフォリオシステムの項目を決定し、入力マニュアルを整備して学生が活用できるようにした。 | ○ |
| | | ①ウ 教育の質を向上させるため、学生へのアンケート調査等を実施し、改善する。 | 12 | 定性的指標 | ①ウA…DP(ディプロマ・ポリシー)達成度調査に基づく、検証・改善状況(毎年度、次年度以降に向けた授業内容等の改善計画を策定し、その計画を着実に実施する。) | 2018年度～2021年度に学部生を対象に実施したDP達成度調査(卒業時調査)の結果を教育・学生支援企画室で分析し、改善計画を策定した。また、各学部にて分析結果をフィードバックし、各学部の点検結果を報告書にとりまとめ、学内限定で公開した。 | ○ |

| | | | | | | | |
|---------------------------|---|---|----|-------|--|--|---|
| 4-2 教養教育の推進 | ① Society5.0で活躍できる、幅広い教養及び柔軟な思考力並びに国際的な視野を持つ人材を育成する。 | ①ア 幅広い教養及び柔軟な思考力を養うため、細分化された既存の授業科目の教育内容を見直し、チームティーチングを推進することで、1つのテーマに対して多面的で幅広く俯瞰できる授業科目を構築する。 | 13 | 定量的指標 | ①アA…多様な教員で一つの授業を担当する授業科目の数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間末と比べて10%の増加を達成) [最終年度までに68科目以上] | [令和4年度:80科目] ・複数の教員で役割分担し、協力しながらオムニバス形式により、専門分野(文系・理系や所属学系)、実務家経験、国籍や海外経験などが異なる教員による授業を実施した。 | ○ |
| | | ①イ 1年次学生を対象として短期海外派遣プログラムを実施する。 | 14 | 定量的指標 | ①イA…短期海外派遣プログラムの1年次学生の平均参加者数(第4期中期目標期間平均で40名、第3期の平均参加者数の2倍) [第4期平均40人以上] | [令和4年度:58人] 1年生58人が参加した(マレーシア 20人、フィリピン 37人、アメリカ 1人)。学生の参加費用負担の軽減を図るため、1年次生対象のプログラムは富山大学基金から、全学年対象のプログラムには日本学生支援機構及び金森産業株式会社からの奨学金が給付された。 また、海外派遣のための英語力強化の取り組みとして、フィリピンのアテネオデマニラ大学に協力を依頼してオンライン英語研修を実施した。 | ○ |
| | | ①ウ 英語の授業において、能力別、テーマ別のクラス分けを導入するとともに、定期的な英語外部試験を実施する。 | 15 | 定量的指標 | ①ウA…1年次学生の英語外部試験の平均得点(4月と翌年1月の2回受験させ、2回目の平均得点を1回目より5%以上上昇させる(第4期中期目標期間を通しての平均)) [第4期平均5%以上上昇] | [令和4年度:10.2%] 令和4年度から教養教育において、全学必修の「基盤英語Ⅰ・Ⅱ」及び「ESPⅠ」について習熟度別のクラス編成を導入した。 また1年次学生に2回受験を必須とした、英語外部試験(TOEIC)は、4月実施の平均得点は441点、翌年1月実施の平均得点が486点となり、2回目の平均得点が1回目より45点上昇し、伸び率が全体で10.2%上昇した。 | ◎ |
| 4-3 社会のニーズを踏まえた教育プログラムの整備 | ① 多様化・複雑化している社会のニーズを踏まえたエキスパートの輩出に向け、幅広い知識や深い専門的学識、及び複合的な視野を備えた人材を育成する。 | ①ア 変化する社会的ニーズに対応するため、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」等の既存の学部横断型教育プログラムを整備、充実させるため、その評価方法(PDCAサイクル)を構築、制度化する。 | 16 | 定性的指標 | ①アA…教育プログラム評価方法の構築及び検証と改善状況(令和4年度末までに教育プログラム評価方法を構築し、令和5年度から制度化する。それに基づき毎年度検証を行い翌年度以降へ向けた改善計画を策定し、その計画を着実に実施する。) | ・各教育プログラム規則を改正し、プログラム評価を教育・学生支援機構が実施することとした。 ・「学部横断型教育プログラムの評価について」(令和5年2月3日教育・学生支援機構会議承認)において、対象教育プログラム・評価項目・評価作業主体・評価シート・修了者へのアンケート項目を定めた。 | ○ |

中期目標【5】 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程)

| 中期計画 | | | 評価指標 | | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 | |
|------------------------|--|--|------|-------|---|--|---|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 5-1 研究者/高度職業人の研究基盤力の育成 | ① 産業界等で必要とする異分野融合の視野を備えた人材を育成する。特に文理融合系の課程においては、文理複眼の視野及び多角的思考力を具有する人材を育成する。 | ①ア 令和4年度に設置する新大学院の全ての研究科及び学環(研究科等連係課程実施基本組織)において、従来の研究科や専攻の枠組みにとられない領域の異なる複数教員による研究指導を実施する。特に、学環に設置する「社会データサイエンスプログラム」及び「グローバルSDGsプログラム」において、従来の枠組みにとられない文理融合系の領域の異なる複数教員による研究指導を実施する。 | 17 | 定量的指標 | ①アA…研究科及び学環における文系内(人文社会芸術)又は理系内(医薬、理工及び医薬理工)の異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合(第4期中期目標期間中の平均割合を、令和3年度比20%増) [第4期平均24%以上] | [令和4年度:33.9%] 令和4年度の実績では文系内は基準値より低いが理系内は基準値より高く、全体として33.9%となり計画値を達成した。 ○人文社会芸術総合研究科 18.2% ○総合医薬学研究所 29.3% ○理工学研究科 26.6% ○医薬理工学環 93.8% | ○ |
| | | | 18 | 定量的指標 | ①アB…持続可能社会創成学環の2つのプログラムにおける文理融合系の異分野複数教員による研究指導を受けた学生の割合(第4期中期目標期間中の平均割合を、当該学環学生全体の50%以上とする) [第4期平均50%以上] | [令和4年度:100%] 文理融合の持続可能社会創成学環では、異分野複数教員による研究指導体制を整備し、その運用を徹底したため、計画値を大きく越え100%であった。 | ○ |

中期目標【6】 深い専門性の涵養や、異なる分野の研究者との協働等を通じて、研究者としての幅広い素養を身に付けさせるとともに、独立した研究者として自らの意思で研究を遂行できる能力を育成することで、アカデミアのみならず産業界等、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材を養成する。(博士課程)⑧

| 中期計画 | | | 評価指標 | | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 | |
|-----------------------------|--|--|------|-------|---|--|---|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 6-1 次世代を担う研究者の育成 | ① 深い専門性のみならず次世代を担う研究者に必須である自由な発想と幅広い専門知識を身に付けさせ、アカデミアや産業界において領域横断的技術の開発及び新たな価値創造を担える人材を育成する。 | ①ア 令和4年度から修士課程に設置予定の学環(研究科等連係課程実施基本組織)を中心に領域の異なる複数教員による研究指導を実施し、博士課程においてもその体制を生かした指導を実施する。 | 19 | 定量的指標 | ①アA…異分野融合による共著論文数及びその共著論文数の全論文数(大学院博士課程)に占める割合(第4期中期目標期間中の平均割合を、令和3年度比20%増) [第4期平均40%以上] | [令和4年度:31.6%] 論文数、異分野共著論文数ともにR3年度実績より減少しており、計画値を達成できなかった。詳しい要因を今後分析する予定である。また集計方法についても課題があるため検討が必要である。 | △ |
| 6-2 社会の多様な分野で活躍できる博士課程学生の育成 | ① 優秀な大学院博士課程学生を対象に、研究力向上、キャリアパス支援に向けた様々な取組を提供し、アカデミアや民間企業等で幅広く活躍できる人材を育成する。 | ①ア「科学技術イノベーション創出に向けたフェロースhip創出事業」採用学生の論文投稿及び国際学会発表の支援による研究力向上、インターンシップ参加などのキャリアパス支援に向けた様々な取組を提供する。 | 20 | 定量的指標 | ①アA…論文投稿数及び国際学会発表数(「科学技術イノベーション創出に向けたフェロースhip創出事業」採用学生が、いずれかを毎年度1回以上投稿又は発表) [第4期中毎年度1人あたり1回以上] | [令和4年度:1人あたり3.3回] 「科学技術イノベーション創出に向けたフェロースhip創出事業」により、令和4年度は博士課程2年次10名、1年次10名の計20名に対し支援を行い、支援対象学生20名全員が、論文投稿もしくは国際会議発表を1件以上実施した。 | ○ |

中期目標【7】 医師や学校教員など、特定の職業に就く人材養成を目的とした課程において、当該職業分野で必要とされる資質・能力を意識し、教育課程を高度化することで、当該職業分野を先導し、中核となって活躍できる人材を養成する。⑩

| 中期計画 | | | 評価指標 | | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 | |
|---------------------------------|--|--|------|-------|---|---|---|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 7-1 医師養成課程の高度化 | ① 高度医療や地域の医療に貢献するため不断の医学教育改革に努め、医師養成課程の高度化を図る。 | ①ア 日本医学教育評価機構(JACME)が実施する「医学教育分野別評価」を受審し、評価結果を踏まえて改善に取り組む。 | 21 | 定量的指標 | ①アA…日本医学教育評価機構(JACME)が実施する国際基準に基づく医学教育分野別評価の適合率(令和9年度末までに自己評価で100%適合) [最終年度末までに自己評価で100%適合] | [令和4年度:(本受審において)適合率56.3%] 令和4年度に医学教育分野別評価を本受審した結果、71項目中40項目が「適合」評価で、適合率は56.3%であった(R5年5月25日付け結果公表)。この結果を受けて次年度以降、「部分的適合」項目が自己評価で「適合」となるよう改善計画を策定し改善に努めていく予定である。 | ○ |
| 7-2 先進的な教員養成体制の構築による、優れた教員人材の輩出 | ① 令和4年4月の金沢大学との共同教員養成課程の設置(予定)により、広く教育リソースを持ち寄り、効果的で先進的な教育体制を構築し、優れた教員人材を輩出する。 | ①ア インクルーシブ教育、ICT教育、英語教育等、現代的課題に対応する先進的教育科目(必修)を開講する。 | 22 | 定量的指標 | ①アA…先進的教育科目の開講数(令和7年度末までに146科目開講) [令和7年度末までに146科目開講] | [令和4年度:8科目] 予定開講数である8科目を開講し、「総合性」「個性性」「地域性」「国際性」のいずれか又は複数の内容を有する「教員養成科目の領域を柔軟に越境し架橋する新しい科目」として、複雑化していく教育環境に応える力を養成している。 | ○ |
| | | ①イ 両大学教員の連携によるきめ細かな学生指導を実施する。 | 23 | 定性的指標 | ①イA…両大学教員の連携による新たな学生指導体制整備状況(令和7年度末までにユニットによる4年一貫の学生指導体制を確立し、「教師になるためのノート」の活用や両大学の合同指導を実施) | ・富山大学・金沢大学双方で18のユニット(ユニットA~R)を整備し、各ユニットに両大学の学生9~10名を配置し、活動を開始した。 ・金沢大学と合同の「野外体験活動」をキョコ山ふれあい研修センターにて実施(A日程:6/25・6/26、B日程:7/2・7/3)した。 ・各学生は、「教師になるためのノート」をガイドブック的に利用するほか、課題レポートを蓄積するなど活用した。 | ○ |
| | | ①ウ 教育委員会との連携による、地域の課題・特性に対応した新たな学修機会を提供する。 | 24 | 定量的指標 | ①ウA…教育委員会との連携強化による新たな学修の履修者数(関連する学修(学校インターンシップ、子どもとのふれあい体験等)の第4期中期目標期間中の履修者合計を、第3期中期目標期間より増加) [第4期計952人以上履修] | [令和4年度:175人] 教育委員会との連携学修として「学校インターンシップ」及び「子どもとのふれあい体験」を開講し、学生175人が履修した。また、その際本学教員を担当として配置し(学校インターンシップ15名、子どもとのふれあい体験20名)、教育委員会と連携しながら学生指導・支援を実施した。なお、正課外活動として、「観察実験アシスタント」などの活動にも参加している。 | ○ |
| | | ①エ 小学校一種免許状に加え、中学校(高等学校)・特別支援学校・幼稚園のいずれかの二種免許状の取得が卒業要件となっているが、いずれも一種の複数免許状の取得を推奨し、教職に就く意欲を高めるとともに、教職支援センターと連携し、教職特任教授による相談・指導等、教員採用試験の合格者増に向けた取組を実施する。 | 25 | 定量的指標 | ①エA…教員採用試験合格者数(第4期中期目標期間最終年度までに、年間50人以上を合格させる) [最終年度までに50人以上合格] | [※教育学部最初の卒業生を輩出する令和7年度から集計を開始] 新入生オリエンテーション(4/4開催)や2枚目免許に関する説明会(11/22開催)において、2枚目免許を一種免許にて取得することを推奨の旨説明した。また特に「基礎ゼミナール」において各学校種の教員の仕事や各教科についての魅力を学び、「学校インターンシップ」や「子どもとのふれあい体験」を通じて、早期から教育現場を体験させることで、学生の資質向上、モチベーション向上につなげている。 これらの結果、12月に実施した2枚目免許希望調査においては、約90%の学生が1種免許取得予定であるとの結果が得られている。 | ○ |

中期目標【8】 データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、社会人向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、数理・データサイエンス・AI など新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、社会人の職業人としてのスキル向上を支援する。⑪

| 中期計画 | | | | | 評価指標 | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 |
|-----------------|--|---|-----|-------|--|--|------|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 8-1 リカレント教育の質向上 | ① これからの社会人の基礎的能力となる数理・データサイエンス・AI教育を、地域に普及させる。 | ①ア 県内の小・中・高・特支学校教員のICT、データサイエンスに対する指導力を向上させるためのセミナーを開催する。 | 26 | 定量的指標 | ①アA、①イA…データサイエンス講座及びセミナーの受講生に対するアンケート調査の結果(毎年度、満足度5段階中平均3.5以上の評価を得る) [第4期中毎年度3.5以上] | [令和4年度:アンケート結果:4.2] データサイエンス教育の地域への普及策として、学校教員向けセミナー及び保護者向け研修、社会人対象の講座、セミナー、特別実習を開講し、毎回アンケートを実施した結果、満足度は計画値を大きく上回る4.2であった。 (1)学校教育推進 オンラインセミナー 計9回 (内訳)小中高特支オンラインセミナー 3回 県内高校との協働学習会 3回 保護者向け研修 3回 (2)データサイエンスセミナー【対面・オンライン】 2回 (3)データサイエンス特別実習【対面】 1回 (4)DX学修セミナー【オンライン】 計8回 (5)オンデマンドコンテンツ【オンライン】 計11科目開講 | ◎ |
| | | ①イ データサイエンスに関する講座の開設や、データ分析による課題解決力を向上させるセミナーを開催し、県内行政機関や企業等において、データサイエンスを活用できる人材を養成する。 | | | | | |
| | ② 課題解決力(共創力)や高度な専門的能力を身に付けられる実践型リカレント教育を実施する。 | ②ア 本学の修士課程において、遠隔授業数を増やすなど、社会人が就学しやすい環境と制度を整える。 | 27 | 定量的指標 | ②アA…本学修士課程の社会人入学者の人数(第4期中期目標期間中の平均入学者数を、第3期中期目標期間中の平均入学者数より増加) [第4期平均24人以上] | [令和4年度:31人] 富山県と連携し、教職実践開発研究科の入学者を確保した。次年度以降、社会人が就学しやすい環境整備として、オンライン講座の実施、社会人が就学しやすい履修制度の整備を行う予定である。 | ○ |
| | | ②イ 地域に根ざした小規模事業者等を対象に、時代に応じて変化する地域特有の課題やニーズに対応できるよう実践型リカレント教育を実施する。 | 28 | 定性的指標 | ②イA…実践型リカレント教育の改善状況(毎年度、アンケート等に基づき検証を行い、翌年度以降へ向けた改善計画を策定し、その計画を着実に実施する) | 以下5つの実践型リカレント教育について、それぞれ改善計画を策定し実行した。 ・「とやま西園域共創ビジネス研究所」 ・「なんと未来創造塾」 ・「とやま未来青果塾」 ・「TOYAMA採用イノベーションスクール」 ・「富山”Re-Design”ラボ」(R4年度新規開講) | ○ |

I 教育研究の質の向上 (3)研究

中期目標【9】 真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭

| 中期計画 | | | 評価指標 | | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 | |
|---------------|---|---|------|-------|---|---|---|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 9-1 研究IR機能の構築 | ① 本学が強みとする脳科学分野をはじめ、広く基礎研究・学術研究の継承・発展に必要な資源を確保するため、研究IR機能を有した戦略組織を構築し、学内の教育・研究・財務等の多様なデータを収集・分析することで、戦略的な研究支援活動を行う。 | ①ア 研究IR機能を有する組織体を設置し、実施するための専門的な人材を育成・配置する。 | 29 | 定性的指標 | ①アA…研究IR機能を有した戦略組織の整備状況(令和5年度までに整備する。規則を制定した上で、研究IR担当URA1名のほか、組織を運営する人員を配置し、執務室を整備する。) | ・大型外部資金を原資として、研究IR担当URAを雇用する予算を確保し、公募等を行った。(雇用は令和5年度から) ・研究IR組織に求められる体制の検討を実施したが、研究IR組織の規則制定にまで至らなかった。 | △ |
| | | ①イ 収集・分析データの項目を抽出し、分析体制を整え、戦略的に支援する。 | 30 | 定量的指標 | ①イA…研究IR業務に従事するURAが戦略的に関与して申請する、JST、AMED、NEDOをはじめとした大型の競争的資金の申請数(第4期中期計画期間中に合計15件) [第4期計15件以上] | [令和4年度:1件] | ○ |

中期目標【10】 地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑤

| 中期計画 | | | | | 評価指標 | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 | |
|--------------------------------|---|--|---|-------|--|---|---|---|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | | |
| 10-1 社会の課題解決・イノベーションに寄与する研究の推進 | ① 国内外との共同研究を推進し、本学が強みとして保有している重点研究分野(カーボンニュートラル・ヘルスケア・創薬・軽金属・データサイエンス等)の研究や技術(文化財保存等)を地球規模で問題となっている課題の解決や社会のイノベーションにつなげる。 | ①ア 産業界との共同研究や、各種競争的資金制度を積極的に獲得し活用するため、社会実装を伴うプロジェクトに対し、研究IRを活用した、URAによる積極的な関与などにより、戦略的に研究支援する。 | 31 | 定量的指標 | ①アA…重点研究分野・技術が実施する共同研究・受託研究の件数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期平均比10%増を達成) [第4期平均104件以上] | [令和4年度:125件] 企業ニーズに合わせて大学の研究成果を紹介することにより、共同研究件数の増加を図った。 また、共同研究件数増加につながる研究シーズ集の作成を重点研究分野ごとに分類するなどの工夫をしたこと等により、令和4年度は計画値を大きく上回る125件実施した。 | ◎ | |
| | | | 32 | 定量的指標 | ①アB…重点研究分野・技術における政策課題的な競争的資金の獲得を支援するため、研究IR業務に従事するURAが戦略的に関与して申請する、JST、AMED、NEDOをはじめとした大型の競争的資金の申請数(第4期中期計画中に合計15件) [第4期計15件以上] | [令和4年度:1件] 計画値は達成した。次年度以降、JST、AMED、NEDOをはじめとした大型の競争的資金の申請について、教員が個々に申請を検討しているものに研究IR担当のURAが積極的に関わることで、申請増につなげる。 | ○ | |
| | | | 33 | 定量的指標 | ①イA…重点研究分野・技術の論文掲載数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期平均比10%増を達成) [最終年度未までに248件以上] | [令和4年度:227件] 計画値にわずかに及ばなかった。次年度以降、研究IR担当URAとの連携を強化し、積極的な共同研究等を推進することで、論文投稿数増へ繋がると考えている。 | △ | |
| | | | ①イ 重点領域研究分野・技術における研究活動を、研究IRを活用した、戦略的な論文投稿支援などにより、促進する。 | 34 | 定量的指標 | ①イB…重点研究分野・技術の論文被引用件数(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間最終年度比7%増を達成) [第4期計13,644件以上] | [令和4年度:504件] 計画値を約45%上回った。今後、論文投稿数の増加に伴い、引用数も順調に伸びていくことが予想される。 | ○ |
| | ② 熊本大学との連携により設置した先進軽金属材料国際研究機構において、それぞれが強みとして保有している分野を融合した共同研究を推進する。 | ②ア 先進軽金属材料国際研究機構に、学術研究用設備の共同利用環境を整備し、新たな共同研究実施に結び付ける。 | 35 | 定量的指標 | ②アA…先進軽金属材料国際研究機構における共同研究の件数(第4期中期目標期間中の平均件数を令和3年度比増) [第4期平均35.0件以上] | [令和4年度:42件] 単年度の計画値を大きく上回った。特に令和4年度から、共同利用・共同研究拠点としての公募事業を開始し、11件の共同研究を行ったことが数値の伸びに大きく寄与している。企業との共同研究件数も23件(令和3年度)から31件(令和4年度)へと増加しており、経済産業省地域の中核大学の産学融合拠点の整備事業に採択されたことも背景にあると考えられる。 | ○ | |
| | | | 36 | 定量的指標 | ②アB…先進軽金属材料国際研究機構における共同研究による論文掲載数(第4期中期目標期間中の平均件数を令和3年度比5%増) [第4期平均25.2件以上] | [令和4年度:28件] 単年度計画値を達成した。共同利用・共同研究拠点の公募による研究が開始したことや、経済産業省地域の中核大学の産学融合拠点の整備事業の採択、科学技術振興機構共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)が開始したことで、共同研究の件数は増加し、論文成果に結実したと思われる。 | ○ | |
| | | | 37 | 定量的指標 | ②アC…先進軽金属材料国際研究機構における特許の申請件数(第4期中期目標期間中の平均件数を令和3年度比増) [第4期平均4.1件以上] | [令和4年度:3件] 単年度計画値にわずかに届かなかったが、次年度に申請の見込みが立っているケースも複数存在するため、進捗状況に大きな問題はないと考えている。 | △ | |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|---|----|-------|---|---|---|
| 10-2 社会実装を目指した東西医薬学融合研究の推進 | ① 東西医薬学の融合による新たな疾病予防・治療戦略(次世代型医療科学)を創出し、創薬・育薬といった社会実装へとつなげる。さらに国内及び国際的な伝統医薬学研究(含和漢医薬学研究)の中核的拠点を担える体制を強化する。 | ①ア 東西医薬学の融合研究として4つの重点研究プロジェクト(1.高齢者疾患対策研究、2.代謝・免疫疾患対策研究、3.未病医療・創薬研究、4.資源開発研究)を重点支援し、当該プロジェクトの論文数や特許申請数を増加させる。 | 38 | 定量的指標 | ①アA…創薬シーズの数(年間4件以上、第4期中期目標期間中延べ24件以上) ※創薬シーズの数はシーズ関連論文発表及び特許申請数の総数とする。 [年間4件以上、第4期延べ24件以上] | [令和4年度:14件] 未病の科学的解明、漢方薬による認知症予防、複合剤による創薬を含む「東西医薬学の融合を基盤とした次世代型医療科学の創出」を推進するため、3つの和漢研重点研究プロジェクト[1]高齢者疾患対策研究、2)未病・予防先制医療研究、3)資源開発研究]について、6研究課題を実施した。また、生薬エキス、漢方方剤エキスを作製し、和漢研「和漢薬ライブラリー」による公募型共同研究「探索研究」を実施したことにより、創薬シーズとして12件の論文発表と2件の特許申請を行った(計14件)。これは計画値を大きく上回るものである。 | ◎ |
| | | ①イ 和漢医薬学総合研究所に学術研究用設備の共同利用環境を整備し、産官学連携共同研究を推進する。 | 39 | 定量的指標 | ①イA…産官学連携による共同研究の件数(年間4件以上、第4期中期目標期間中延べ24件以上) [年間4件以上、第4期延べ24件以上] | [令和4年度:6件] 和漢研産学連携部門を中心に、企業との共同研究についてのコーディネートを行った。その成果として、企業と和漢研内の複数研究室との包括的な共同研究を含めた6件の産学共同研究を実施した。 | ○ |
| | | ①ウ 医学部・薬学部・附属病院と連携して創薬につながる臨床研究;トランスレーショナルリサーチ(基礎研究から臨床現場への橋渡し研究)を推進する。 | 40 | 定量的指標 | ①ウA…臨床研究(特定臨床研究、医師主導治験)の実施数(第4期中期目標期間中に3件以上) [第4期計3件以上] | [令和4年度:3件] 以下の特定臨床研究3件実施し、最終目標値を達成した。 (1) 特定臨床研究「軽度認知障害および軽度アルツハイマー型認知症における山芋エキスの有効性を検討するランダム化二重盲検群間比較試験」を終了した。(研究責任医師:附属病院神経精神科 鈴木道雄教授, 研究総括者:和漢医薬学総合研究所 東田千尋) (2) 特定臨床研究「頸椎症性脊髄症に対するニクジュヨウエキスの有効性を検討するランダム化二重盲検群間比較試験」の被験者組み入れが目標人数の87.5%まで進んだ。(研究責任医師:附属病院整形外科 川口善治教授, 研究総括者:和漢医薬学総合研究所 東田千尋) (3) 特定臨床研究「慢性閉塞性肺疾患患者に対するニクジュヨウエキスの忍容性試験を評価する臨床研究」の被験者組み入れが目標人数の20%まで進んだ。(研究責任医師:附属病院臨床腫瘍部 林 龍二教授) | ◎ |
| | | ①エ 異分野融合型共同研究や国際共同研究に取り組むことで、国内外研究機関との関係を強化し、国内研究機関との連携協定締結及び海外研究機関との国際協力拠点設置に結び付ける。 | 41 | 定量的指標 | ①エA…国内研究機関との連携協定締結数(第4期中期目標期間中新規1か所以上) [第4期計1件以上] | [令和4年度:0件] 世界的に喫緊の課題となっている薬用資源の持続可能な利用の実現、さらにはこれらの資源を活用した創薬・ヘルスケア領域での社会実装を目指した国内連携を、同様のミッションで教育・研究活動を推進している熊本大学大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター(熊大グローバル天然物センター)と連携強化することで、天然物創薬拠点の形成を目指し、本年度は両拠点間での人的な交流を実施した。 | ○ |
| | | ①エB…海外研究機関との国際協力拠点の設置数(第4期中期目標期間中新規1か所以上) [第4期計1件以上] | 42 | 定量的指標 | [令和4年度:0件] ASEAN諸国の教育研究機関(タイ・チュラロンコン大学、インドネシア・ハサヌディン大学)との拠点形成に向けた連携の強化のため、タイ・チュラロンコン大学薬学部長とインドネシア・ハサヌディン大学副学長(前薬学部長)を学術交流のために和漢研に招へいし、今後の研究連携について情報交換会を行なった。また国際協力拠点の設置に向けて、インドネシア・ガジャマダ大学薬学部と部局間交流協定を新たに締結した。 | ○ | |

中期目標【11】 若手、女性、外国人など研究者の多様性を高めることで、知の集積拠点として、持続的に新たな価値を創出し、発展し続けるための基盤を構築する。⑩

| 中期計画 | | | | | 評価指標 | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 |
|-----------------|--|---|-----|-------|---|---|------|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 11-1 若手教員比率の向上 | ① 本学の研究力の向上及び学問分野の継承と新しい視点の確保のため、若手教員比率を確実に上昇させる。 | ①ア 教員組織である学術研究部の下に置かれた学系単位で、毎年度数値目標を設定し、達成するための支援策を講じる。 | 43 | 定量的指標 | ①アA、①イA…学系ごと年度ごとの若手教員比率(第4期中期目標期間末までに大学全体で25%) [最終年度までに25%以上] | [令和4年度:18.7%] ・先進大学の事例調査を踏まえ、新たに病院助教及び病院特別助教の制度設計を行い、R5.1.1付で計18名を採用した。(うち13名が若手教員。) ・教員の任期規則の改正を行った。(助教の再任を1回までとする学系が増加し、若手教員の好循環が期待される。) ・学術研究部会議において、各学系の若手教員比率向上に向けた方策の進捗状況を確認するとともに、各学系の数値目標の達成状況を確認した。未達成の学系からは物件費を削減する予定であったが、光熱費高騰に伴う物件費削減の影響を踏まえ、令和5年度予算に限り物件費削減を行わないこと及び令和6年度予算以降に削減を行うことを役員会決定した。 ・若手研究者の雇用を支援し、本学の強み・特色のある研究を推進し加速させることを目的とした「若手研究者雇用支援プロジェクト」(間接経費により人件費を措置)により、R5.4.1付で3名の若手教員を採用することを決定した。 なお、R5.5.1現在では、20.4%となっている。 | △ |
| | | ①イ 定期的に達成状況を検証し、支援策の見直しを実施する。 | | | | | |
| | | ①ウ 教員組織である学術研究部の下に置かれた学系単位で、若手教員の指導・育成方針を策定する。 | 44 | 定性的指標 | ①ウA…各学系における若手教員の指導・育成方針の策定状況(令和6年度までに策定) | | |
| 11-2 ダイバーシティの推進 | ① ダイバーシティの推進体制を強化し、全学的に女性研究者や多様な人材が活躍できるよう、意識、組織、環境を変える。 | ①ア 女性研究者を上位職に登用するための育成プログラムを構築することにより、大学運営における意思決定機関等への女性の参画を拡大する。 | 45 | 定量的指標 | ①アA…役員、部局執行部等の大学運営における意思決定機関等の女性数(第4期中期目標期間中の平均人数を、第3期中期目標期間の平均人数より増加) [第4期平均6.5人以上] | [令和4年度:7人] | ○ |
| | | ①イ 若手研究者や女性研究者が、研究に専念できる環境の整備を行うため、学内の校務の縮減を図る「学内サバティカル制度」を創設し、予算を確保し、運用する。 | 46 | 定性的指標 | ①イA…全学的な学内サバティカル制度の制度化及び予算措置(令和5年度までに実施) | 全学的なサバティカル制度の制度化を検討したが、既に複数部局(人文・理・教養)が独自のサバティカル制度を運用している状況を踏まえ、各部局がそれぞれサバティカル制度を実施できるよう「学内サバティカル制度の実施に関する規則」を制定し、各部局の取組を後押しした。更なる研究専念支援体制充実のため、令和5年度以降、全学的な独自サバティカル制度(研究専念制度等)の創設及び予算措置に向けて検討する。 | ○ |
| | | | 47 | 定量的指標 | ①イB…本制度に係る支援者数(第4期終了時までに3名以上支援) [第4期計3人以上] | [令和4年度:0人] 全学的なサバティカル制度の制度化を検討したが、既に複数部局(人文・理・教養)が独自のサバティカル制度を運用している状況を踏まえ、各部局がそれぞれサバティカル制度を実施できるよう「学内サバティカル制度の実施に関する規則」を制定し、各部局の取組を後押しした。更なる研究専念支援体制充実のため、令和5年度以降、全学的な独自サバティカル制度(研究専念制度等)の創設及び予算措置に向けて検討する。 | ○ |

| | | | | | | | |
|--|--|---|-------|--|--|--|---|
| | | ①ウ 育児・介護等の支援体制を強化し、制度の周知を図ることで、女性研究者の研究継続をはじめとし、多様な人材が働きやすい環境を構築する。 | 48 | 定性的指標 | ①ウA…育児・介護等の支援体制の理解と意識向上を促し、多様性に関する理解を深めるためのeラーニングを構築する(令和6年度までに構築) | <ul style="list-style-type: none"> 育児・介護等の理解・意識向上に関する以下の取組を実施した。 ・管理職を対象にダイバーシティ管理職研修を実施した。 ・介護相談、介護セミナーを実施した。 ・附属図書館との連携により、介護図書展示を実施した。 ・男性育児休暇取得者の記事を掲載したニュースレターを発行した。 ・男性育児休業取得者を講師とする講演、座談会(スマートカフェ)を実施した。 ・育児・介護に関する学内制度について、人事課担当者による説明会を実施した。 | ○ |
| 11-3 外国人教員(研究者)配置による国際ネットワーク強化・知の集積拠点の形成 | ① 留学生の受け入れや派遣、さらには国際共同研究の推進のために、国際ネットワークを強化する。 | ①ア 国際協力拠点を中心に、クロスポイントメント制度及び学長管理ポイントを活用した外国人教員を配置するとともに、新たにリエゾンプロフェッサー制度(仮称)を構築し連携教員を任命することで、国際ネットワークを強化する。 | 49 | 定量的指標 | ①アA…外国人教員又は連携教員の国際協力拠点への配置数(第4期中期目標期間中に6名配置:1名/年) [第4期計6人以上] | <ul style="list-style-type: none"> [令和4年度:0人] ・国際協力拠点として新たに設置するリエゾンオフィスへの配置を視野に入れ、構築したリエゾンプロフェッサー制度に基づき16名のリエゾンプロフェッサーを委嘱した。 ・委嘱したリエゾンプロフェッサーを招いて11月にリエゾンプロフェッサー・アセンブリを開催し、本学との連携協力を確認するとともに、リエゾンオフィス設置の可能性を含め意見交換を行った。 ・若手研究者雇用支援プロジェクトによる外国人の特命助教を1名採用した。 | ○ |
| | | | 50 | 定性的指標 | ①アB…リエゾンプロフェッサー制度(仮称)の構築(令和4年度中に構築) | <ul style="list-style-type: none"> 海外の教育研究機関に所属する教員又は研究者で、本学との連携を図り、本学の国際化推進のため活動いただける方に「富山大学リエゾンプロフェッサー」として委嘱する、リエゾンプロフェッサー制度を創設し、関係規則を整備した。 構築したリエゾンプロフェッサー制度に基づき、理学部、芸術文化学部、都市デザイン学部、和漢医薬学総合研究所及び研究推進機構の各部局からの推薦により16名のリエゾンプロフェッサーを委嘱した。 今後も継続して全学で研究分野の偏りなくリエゾンプロフェッサーを委嘱し、その所属機関と連携協力を図り、国際ネットワーク強化のため、リエゾンプロフェッサーを活用する。 | ○ |
| | | 51 | 定量的指標 | ①イA…国際協力拠点数(第4期中期目標期間最終年度までに、6拠点:3(第3期の拠点数)×2) [最終年度までに6拠点以上] | <ul style="list-style-type: none"> [令和4年度:3拠点] ・海外に設置する国際協力拠点としてのリエゾンオフィスの定義を明確化し、関係規則を整備した。 ・構築したリエゾンプロフェッサー制度に基づき16名のリエゾンプロフェッサーを委嘱した。 ・リエゾンプロフェッサーを招いて11月にアセンブリを開催した。 | ○ | |

I 教育研究の質の向上 (4)その他重要事項

中期目標【12】 世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、医療分野を先導し、中核となって活躍できる医療人を養成する。(附属病院)㊹

| 中期計画 | | | | | 評価指標 | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 |
|----------------------|---|---|-----|-------|---|---|------|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 12-1 地域の医療連携と高度医療の強化 | ① 地方自治体、地域医療機関との連携強化を図り、特定機能病院である当院と他病院の役割分担を明確化し、質の高い医療を提供するとともに地域医療に貢献する。 | ①ア 地域連携研修会の開催や連携登録医数の増加等により地域の医療機関との連携を強化し、紹介率、逆紹介率及び医師派遣数を、より増加させる。 | 52 | 定量的指標 | ①アA…紹介率、医療連携協定病院などへの逆紹介率、地域の医療機関への医師派遣数(第4期中期目標期間中の平均数を、第3期中期目標期間中の平均数より増加) [紹介割合:第4期平均50%以上] [逆紹介割合:第4期平均30%以上] [医師派遣数:第4期平均16人以上] ※(補足) 令和4年度診療報酬改定により『紹介率』『逆紹介率』がそれぞれ『紹介割合』『逆紹介割合』に変更された。算定方法も変更になったため、目標値は中期計画にある「第3期中期目標期間中の平均数」との比較ではなく、診療報酬における減算規定の基準として国が示す値(紹介割合:50%,逆紹介割合:30%)より増加することに読み替える。 | [令和4年度:紹介割合56%,逆紹介割合34%,医師派遣数31人] ・地域連携セミナーを年6回開催(延べ約460人の参加)し、連携登録医の増加(+19医療機関)に努めた。 ・地域医療機関からの診療予約申込(地域連携専用診療予約)について、従来の電話による予約受付に加え、faxによる予約受付を開始し、予約申込の利便性の向上を図った。また、本院からの紹介実績のある医療機関に対して個別に案内を行うことにより連携登録医を増加させた。 医療連携協定病院とのWebカンファレンスを開始した。これによりWebカンファレンスでは多職種が定期的に意見交換を実施することが可能となり、タイムリーな問題解決、スムーズな転院調整、医療連携に繋がった。 地域の医療機関からの医師派遣要請を地域医療総合支援センターに集約し、毎月開催する地域医療総合支援センター委員会で検討し、適切な医師派遣を実施した。 | ○ |
| | | ①イ 高度医療の強化を行うとともに、センター化等により医療機能の集約・強化を行う。 | 53 | 定性的指標 | ①イA…医療機能の集約・強化の状況(令和5年度までに呼吸器センター(仮称)及びこども医療センター(仮称)、令和6年度までにアレルギーセンター(仮称)を設置するとともに、令和3年度に設置したジェンダーセンターでは保険診療が可能となる施設の認定を取得) | ・令和4年6月1日付けで、こども医療センターを設置した。 ・ジェンダーセンターでは保険診療が可能となる施設認定取得条件の一つである症例数(20症例)を達成していないが、北陸GID研究会の開催、大学HPでジェンダーセンターの案内を通して引続き保険診療が可能となる施設の認定取得に向け、取り組んでいく予定である。 | △ |
| | | ①イB…高度医療である一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合が定める高難度手術(D・E)や高難度新規医療技術を用いた医療の実績等(第4期中期目標期間中における高度医療の実績を第3期中期目標期間全体の実績より増加) | 54 | 定量的指標 | [第4期計35,569件以上] | [令和4年度:6,649件] 手術室使用の効率化を図ったことで、全体の手術件数が増加し、高難度手術や高難度新規医療技術実施件数を増やすことができた。 高難度手術(D・E)については、前年度より実施件数が283件増加した。高難度新規医療技術においても実施件数が4件と前年度と同程度となっており、毎年コンスタントに実施している。 | ○ |
| | | ①ウ 検査・診療に利用できるAIアプリケーションを、開発又は導入する。 | 55 | 定性的指標 | ①ウA…検査・診療に利用できるAIアプリケーションの開発や導入状況(令和7年度までに開発と一部導入) | 胸部レントゲン画像のAI画像診断支援ソフトウェアを導入した。 | ○ |

| | | | | | | | |
|-------------------|---|--|----|-------|--|---|---|
| 12-2 医療人材の養成 | ① 研修プログラムの充実や自治体と連携した広報を実施し、臨床研修医、専攻医養成の充実に取り組む。 | ①ア 臨床研修プログラムを充実させるとともに、富山県と連携した広報を実施する。 | 56 | 定量的指標 | ①アA…臨床研修医の採用割合(第4期中期目標期間中における医学科5年時に行う初期研修先調査結果と採用者数の平均割合を、第3期中期目標期間の平均値より増加) [第4期平均107.7%以上] | [令和4年度:142.9%] 本学医学科学生に、附属病院の魅力が伝わるよう以下の取組を実施した。 ・富山県内病院に在籍する研修医、医局説明会などのイベントを開催 ・臨床研修医の生活をまとめた「研修医の生活日記」を作成し、本学医学科学生全員へ配布 ・病院見学者に独自の支援金を支給 ・5月と6月に民間企業が主催するオンライン説明会に参加 ・専門研修プログラムの内容を変更した冊子を作成配布 ・医局説明会の情報をHP、Facebook、Twitterに掲載 ・7月に富山県と合同説明会を開催 | ○ |
| | | | 57 | 定量的指標 | ①アB…専攻医の採用者数(第4期中期目標期間中の平均数を、第3期中期目標期間の平均数より増加) [第4期平均43.8人以上] | [令和4年度:39人] 令和3年度から専攻医増加プロジェクトチームを発足し、専攻医増加に向けた検討を開始した。 令和4年度から専攻医増加に関して説明会開催等の取組を開始したが、直ぐに結果が出るものではないため、当年度の計画値に達しなかった。これまでの活動から専攻医としての勤務先病院は主に学生時代に決定していることが分かったため、学生へのアピールも強化し、長期的な視野で専攻医増加を図る必要がある。 | △ |
| | | | 58 | 定量的指標 | ①アC…研修期間中に実施するアンケート等に基づき計画する、研修プログラムの充実につながる取組件数(第4期中期目標期間中に5件以上) [第4期計5件以上] | [令和4年度:1件] 研修医アンケートでは救急研修の充実を望む声が多かったため、協力病院として高山赤十字病院を追加した。 | ○ |
| 12-3 医師主導治験の強化 | ② 研修等の受講を通して、医療人材養成に取り組む。 | ②ア 高度医療に資する研修等の受講について、医師やコメディカル職員の受講を推進する。 | 59 | 定量的指標 | ②アA…医師やコメディカル職員の各種専門的な研修受講数(第3期中期目標期間において、研修受講数が最も多かった令和2年度実績より毎年度増加) [第4期中毎年度191件以上] | [令和4年度:196件] 病院全職員が対象の研修については、病院運営会議、病院連絡会議等において周知を行った。 | ○ |
| | | | 60 | 定量的指標 | ①アA…社会実装に向けたシーズ発掘及び開発推進の件数(第4期中期目標期間で10件以上実施) [第4期計10件以上] | [令和4年度:7件] ・創薬部門で6件、ヘルスケア部門で1件の特許出願(PCT出願を含む。)を行った。 ・AMED難治性疾患実用化研究事業採択が決定(R5-7年度、6,000万)し、開発推進に向けた素地ができた。 | ○ |
| 12-4 医師等の働き方改革の推進 | ① 臨床研究管理センターにおいて、医師主導治験を自機関において継続的に実施できる支援体制を整備し、支援に携わる多職種の人材育成を推進する。 | ①ア 強みを生かした基礎研究を社会実装化するための段階の一つとして、附属病院が支援する医師主導治験により研究力強化を図る | 61 | 定量的指標 | ①アB…社会実装に向けた臨床研究(特定臨床研究、医師主導治験)の支援の件数(第4期中期目標期間中で5件以上実施) [第4期計5件以上] | [令和4年度:4件] ・臨床研究管理センターにおいて特定臨床研究3件、医師主導治験(分担)1件の計4件を新たに支援した。 ・本学が主機関として実施した医師主導治験(「芍薬甘草湯」・R3.12開始)において、19症例の本登録(仮登録38症例)を達成した。 | ○ |
| | | | 62 | 定量的指標 | ①アA…医療従事者の時間外労働の縮減時間数(第4期中期目標期間中の平均時間を、令和3年度実績より短縮する) [第4期平均374時間未満] | [令和4年度:398時間] 令和5年度末に正式に策定予定である医師労働時間短縮計画に掲げる事項を実施したが、令和4年度の計画値は達成できなかった。 次年度は以下の取組等を行い、計画値達成を目指す予定である。 ・医師の複雑な勤務形態に対応した管理システムの導入 ・医師の宿日直許可についての検討 ・勤務間インターバル等に関する規程整備 | △ |
| 12-4 医師等の働き方改革の推進 | ① 持続可能な地域医療体制の構築に寄与するため、医療従事者の働き方改革を推進し、時間外労働時間の縮減を実現する。 | ①イ 医師の負担軽減を図るため、特定行為看護師に係る研修の受講を促進する。 | 63 | 定量的指標 | ①イA…看護師の特定行為研修修了者数(毎年5名以上の修了者) [第4期中毎年度5人以上] | [令和4年度:6人] 看護部内で希望者を募り6人が修了に至った。 | ○ |

II 業務運営の改善及び効率化

中期目標【13】 内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。②

| 中期計画 | | | | | 評価指標 | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 |
|--------------------------|---|----------------------------|-----|-------|--|---|------|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 13-1 学長ガバナンスの強靱化に向けた体制整備 | ① 学長ガバナンスの強靱化を図るため、学長の大学経営に関する補佐体制を整備する。 | ①ア 外部有識者を学長補佐等へ登用する。 | 64 | 定量的指標 | ①アA…外部有識者の学長補佐等への登用人数(第4期中期目標期間中の平均人数を、第3期中期目標期間中の平均以上) [第4期平均6人以上] | [令和4年度:6人] ・内閣府事業『くすりのシリコンバレーTOYAMA』創造計画のトップレベル人材として富山大学全体の研究開発マネジメント等の強化を行うために3名を、創薬事業に対して専門的知見に基づいた助言等を行うために1名を、及びアルミニウム研究に関して専門的知見に基づき助言等を行うために2名を、それぞれ民間企業等から外部有識者として学長特命補佐に登用した。 | ○ |
| | | ①イ 教職員の法人経営能力を開発する。 | 65 | 定量的指標 | ①イA…教職員のセミナー参加人数(第4期中期目標期間中の平均人数を、第3期中期目標期間中の平均以上) [第4期平均2人以上] | [令和4年度:3人] ・国立大学協会が主催する将来の経営人材を育成するためのマネジメント力等の向上を狙いとしたユニバーシティ・デザイン・ワークショップに理事・副学長1名が参加した。 ・国立大学協会が主催する国立大学法人等担当理事連絡会議(国立大学の研究活動と安全保障、広報戦略)に知識及び情報を体系的に学ぶため、理事2名が参加した。 | ○ |
| 13-2 内部統制システムの継続的な改善 | ① 内部統制システムについて計画的に自己点検を行うことで改善点を見出し、継続的に改善を行い、適正かつ実効性のある体制を構築・運用する。 | ①ア 内部統制システムの計画的な自己点検を実施する。 | 66 | 定性的指標 | ①アA…当該業務における自己点検の結果とその対応状況(内部統制委員会を年2回開催し、重点事項設定及び自己点検結果の確認を実施) | 令和4年度第1回内部統制委員会において、前年度重点事項「研究に係るリスク管理に関する事項」の点検結果における課題について確認するとともに、令和4年度の重点事項を「情報の適切な管理に関する事項」とした。また、次年度以降の自己点検の方針について確認した。 第2回同委員会では、令和4年度重点事項「情報の適切な管理に関する事項」について自己点検を行い、「個人情報管理の適切な管理に当たり必要とされる取組」及び「情報漏えいの防止に係る取組」に関して、関係規則等に基づきそれぞれ適切に対応されていることを確認した。 | ○ |

中期目標【14】 大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。②

| 中期計画 | | | | | 評価指標 | 令和4年度の実績・成果 | 自己評価 |
|------------------|---|--|-----|-------|---|--|------|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 14-1 設備による教育研究支援 | ① 平成30年度から実施している設備サポートセンター整備事業の実績を元に、本学の施設・設備等を活用した教育研究を支援する。 | ①ア 学内の教職員・学生に対して設備説明見学会・講習会、デモ測定技術相談会を開催し、利用を促進する。 | 67 | 定量的指標 | ①アA…対象設備の総利用時間(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間未時点(令和3年度)総利用時間から5%増) [最終年度までに22,693時間以上] | [令和4年度:27,964時間] コロナ感染防止を念頭に、電子顕微鏡、質量分析装置、フローサイトメーターに関する基礎/応用セミナーをオンラインにて開催し、別日に録画映像の上映会も実施した。メーカーの全面協力を得て、全自動ウエスタンシステム、光学系顕微鏡システムについては、デモ測定を実施した。次世代シーケンサー用試料調製装置である核酸精製システムをリースにより導入を行い、次世代シーケンサーの利用状況改善を行った。新規利用者に対しては、講習会(128回、350人)を開催した。これらの取組により、令和4年度の総利用時間は27,964時間となり、最終目標値を達成した。 次年度以降も継続してこの水準の維持を目指す。 | ◎ |
| 14-2 施設マネジメント | ① 本学の様々な活動を支える「知の基盤」として、安全・安心で快適なキャンパス環境を実現するため、施設整備及び維持管理を計画的に実施するとともに、本学におけるカーボンニュートラルの実現に向けた取組を推進する。 | ①ア キャンパスマスタープラン及び施設長寿命化計画に基づき、施設整備を行う。 | 68 | 定性的指標 | ①アA…施設整備及び修繕の状況(毎年度、具体的な整備計画として設定した事業を計画に沿って着実に進める) | 「富山大学キャンパスマスタープランAction Plan2019~2022」を改訂し、同プランに基づき13件の修繕事業を実施した。 | ○ |
| | | ①イ 環境負荷低減の啓発活動推進及び設備機器のエコ改修等を実施する。 | 69 | 定量的指標 | ①イA…エネルギー消費原単位の削減:(比較する年度を基準に、過去5年平均で平均1%/年減) [第4期中毎年度、過去5年平均1%/年減を維持] | [令和4年度:過去5年平均で1.6%/年減] 環境負荷低減啓発活動及び空調更新・照明更新(LED)等設備機器のエコ改修及びESCO事業等を継続実施した結果、直近5年度間で、エネルギー使用量の原単位で対前年度比削減率平均1.6%を達成した。これは本指標の目標値とする省エネ法による削減目標:1%を超える値である。 具体的には、 ・環境負荷低減啓発活動として「節電行動計画」を作成し、教職員に協力を依頼した。 ・設備機器のエコ改修として、照明器具1,932台をLEDに更新し、空調設備においては約135台の空調機を更新した。 | ○ |
| | | ①ウ カーボンニュートラルに向けたロードマップを策定する。 | 70 | 定性的指標 | ①ウA…CO2削減に向けた仕組みづくりの状況(令和7年度末までにロードマップを策定) | ・施設マネジメント委員会下のキャンパスマスタープラン検討ワーキンググループにおいて「キャンパスマスタープラン2020」を第2版へ改訂し、カーボンニュートラルに向けたロードマップを策定した。 ・共同利用棟、和漢医薬学総合研究所、附属幼稚園においてZEB改修を実施した。これによりCO2削減効果が期待できる。 | ○ |
| | | ①エ キャンパスマスタープラン、施設長寿命化計画及び省エネルギー中長期計画を検証する。 | 71 | 定性的指標 | ①エA…キャンパスマスタープラン、施設長寿命化計画及び省エネルギー中長期計画の改定状況(年度毎の見直し及び必要に応じ改定) | ・施設長寿命化計画及び省エネルギー中長期計画の実行計画である「富山大学キャンパスマスタープランAction Plan2019~2022」の実施状況を検証し、その結果を踏まえ、施設マネジメント委員会下のアクションプラン検討ワーキンググループにおいて「富山大学キャンパスマスタープランAction Plan2023~2026(案)」を作成した。 ・施設マネジメント委員会下のキャンパスマスタープラン検討ワーキンググループにおいて「キャンパスマスタープラン2020」について検証し、第2版へ改訂した。 | ○ |
| | ② 施設の有効活用と効率的運用に取り組み、本学の活動ニーズに柔軟に対応できるように、施設マネジメントを推進する。 | ②ア 施設の有効活用を促進するため、施設利用状況調査を実施する。 | 72 | 定性的指標 | ②アA…新たなニーズに対応するスペースマネジメントの実施状況(年1回の施設利用状況調査に基づく必要スペースの調整と確保) | ・教育研究施設全室を対象に施設利用状況調査を行い、判明したスペースを基に、競争的スペースとして新たに「部局長裁量スペース」を設け、各部署が部局長の裁量によりプロジェクト研究等に対応可能な弾力的・流動的に利用できるスペースと定義づけた。 | ○ |

Ⅲ 財務内容の改善

中期目標【15】 公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。③

| 中期計画 | | | | | 評価指標 | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 |
|------|-------------------------------------|--|-----|-------|---|---|------|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 15-1 | 財源の多元化・安定的な財務基盤の確立 | ① 外部資金等の積極的な獲得に取り組むとともに、効率的な資金運用や保有資産の積極的な活用により、外部資金収入及び自己収入額を増加させる。 | 73 | 定量的指標 | ①アA…外部資金収入及び自己収入額(学生納付金・附属病院を除く)(第4期中期目標期間最終年度までに、第3期中期目標期間平均の21.5億円から6%増) [最終年度までに2,279百万円以上] | [令和4年度:2,428百万円] ・資金運用計画に基づき運用し、運用益(一般財源:3,890千円, 寄付金財源:7,324千円)を獲得した。 ・共同研究・受託研究収入等について、企業ニーズに合わせて大学の研究成果を紹介することや、シーズ集の拡充により、企業との接点を増やし、研究資金の獲得増につなげた。 上記取組により、 令和4年度は2,428百万円を獲得し、最終目標値を達成した。 次年度以降も継続してこの水準の維持を目指す。 | ◎ |
| 15-2 | 学内資源配分の最適化 | ① 本学の機能強化に資するため、学長のリーダーシップの下、機動的・効果的な学内予算配分を実施する。 | 74 | 定量的指標 | ①アA…学内評価指標等を活用した配分額(第4期中期目標期間中の平均金額を、第3期中期目標期間末(令和3年度)時点から倍増) [第4期平均45,560千円以上] | [令和4年度:23,490千円] ・部局予算の一部を各部局の成果に応じた配分の財源とするために留保したうえで、学内評価指標の順位に応じた再配分率で配分した。 | ○ |
| | | ①イ 取り組むべき重点事項の方針等を策定し、毎年度の学内予算編成において当該事業の状況結果を確認し、予算配分に反映する。 | 75 | 定量的指標 | ①アB…重点事項への配分額(第4期中期目標期間中の平均割合を、第3期中期目標期間の大学分事業費に占める重点事項への配分割合(平均17%)以上とする) [第4期平均17.3%以上] | [令和4年度:16.0%] ・予算編成において重点事項への配分額を確保した。 特に社会的なインパクトを創出する取組(ミッション実現加速化経費)及び学長のリーダーシップに基づく教育研究の活性化、自学の強み・特色となる分野の醸成、若手・女性研究者の育成などの取組(学長裁量経費)については、重点事項としてヒアリング等による選考や共通指標による客観的な評価を基に戦略的・効果的な配分を行った。 | ○ |
| 15-3 | 附属病院の経営基盤の確保 | ① 医療行政の方向性についての積極的な情報収集と、自院の経営状況分析を基に、附属病院収益を増加させるとともに、医療経費等の削減の取組を戦略的にを行い、附属病院の経営基盤の安定化を実現する。 | 76 | 定量的指標 | ①アA…附属病院の診療報酬請求額(第3期中期目標期間において診療報酬請求額が最も高かった令和2年度実績より毎年増加) [第4期中毎年度23,517百万円以上] | [令和4年度:24,104百万円] 診療報酬改定内容の分析、収支への影響を検証し、順次施設基準を取得した。また、DPCの機能評価係数Ⅱ向上のための取組(評価対象DPCコード数を増やす、DPCⅡ期間までの退院を目指す)を各診療科へ依頼周知した結果、 令和5年度機能評価係数Ⅱが0.0667向上し、機能評価係数Ⅱ(0.1665)が82大学病院本院群中の1位となった。 機能評価係数Ⅱの向上による影響額として、285,882千円の増収を見込んでいる。(令和4年度実績をもとに試算) | ◎ |
| | | ①イ 経営改善ワーキングタスクフォースの活用と、重点指標の目標設定及び達成状況の周知により経営基盤を安定化させる。 | 77 | 定量的指標 | ①イA…減価償却費も加味した病院経営状況(附属病院収入と医療経費の収支差額を第3期中期目標期間平均より増加) [第4期平均6,900百万円以上] | [令和4年度:7,941百万円] 収支改善に向け、経営改善ワーキングタスクフォースにおいて、病院運営の重要な要素に関するモニタリングと経営分析を行い、経営改善の進行状況を把握することで、病院の財務指標が改善されているかを確認しており、その結果、令和4年度の計画値を上回った。 | ○ |
| | ② 国、県及び財団法人等が公募する補助金・助成金等を積極的に獲得する。 | ②ア 国、県、財団法人等の病院関連事業に係る補助金・助成金等について、公募の情報収集を行い、外部資金を積極的に獲得する。 | 78 | 定量的指標 | ②アA…病院関連事業に資する補助金・助成金等の外部資金の獲得件数(継続案件含め)(第4期中期目標期間中の平均件数を、第3期中期目標期間より増加) [第4期平均17件以上] | [令和4年度:22件] 富山県、厚労省が発表する公募情報について、速やかに本院の申請可否を確認し、必要とするものについて申請を行った。また、光熱費等の高騰する状況下において、富山県に光熱費に係る補助金申請の可否を確認し、申請を行った。 | ○ |

IV 自己点検・評価及び情報提供

中期目標【16】 外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。②

| 中期計画 | | | 評価指標 | | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 | |
|----------------------------|--|---|------|-------|--|---|---|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 16-1 エビデンスベースの法人経営 | ① IR(Institutional Research)組織が中心となって、教育・研究・社会貢献等の各領域における戦略・企画担当組織と連携して客観的なデータ分析を実施し、その結果を自己点検・評価のPDCAサイクルに活用することで、エビデンスベースの法人経営を実現する。 | ①ア 学内の各種データを整理して、可視化し、国立大学法人評価等における自己点検・評価のPDCAサイクルの分析に資するデータの収集を行う。このデータに基づき、IR組織において分析を実施し、評価担当組織「計画・評価委員会」において、年1回の自己点検・評価を行う。 | 79 | 定性的指標 | ①アA…学内データの整理・可視化状況(令和7年度末までにデータ相関図を作成する) | <ul style="list-style-type: none"> ・全学IR組織である大学戦略支援室に学内各機構のIR担当者をオブザーバーとして加え、連携体制を構築(連携体制図を作成)するとともに、合同打合せを実施し、各機構の活動状況を共有した。 ・各機構の管理データの一覧表(案)を作成し、データ把握を行った。 | ○ |
| | | | 80 | 定性的指標 | ①アB…自己点検・評価に資する分析の状況(毎年度の自己点検・評価に関するデータ分析報告書等の成果物の作成) | <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価に関するデータ分析報告書として、第4期中期計画における定量的評価指標の進捗状況やデータ分析をまとめた「富山大学自己点検データ集」を毎年度作成・公開することを決定した。 ・第4期中期計画の初年度となる令和4年度は、各指標の基準値及び6年間の計画値をグラフで可視化した「富山大学自己点検データ集(2022スタート版)」を作成し、学内公開した。 | ○ |
| 16-2 ステークホルダーへの情報発信と定期的な対話 | ① 法人・大学に関わる様々なステークホルダーに対し、多様なメディアを使い分け、教育・研究活動等の成果や本学が果たしている機能・役割について情報を発信するとともに、対話・意見聴取を通じて理解と支持を得る。 | ①ア ウェブ、テレビ、紙媒体等の多様なメディアを使い分け、幅広いステークホルダーに情報を伝える。 | 81 | 定量的指標 | ①アA…情報発信に使用したメディアの種別数(テレビ、ウェブ、SNS、パンフレットなどの種別数)(7種のメディアの活用を維持しつつ、新たなメディアが登場した場合は迅速に対応) [第4期中毎年度7種類以上] | [令和4年度:7種類] <ul style="list-style-type: none"> ・広報番組(8番組)を制作し、教育・研究・地域貢献に係る本学の取組についてテレビ放送したほか、広報誌(まなばれ4号、ニュースレター7号・8号)を発行し、誌面による情報発信も行った。 ・報道機関に対しては、プレスリリース160件、記者会見を10回開催し、積極的な情報発信を行った。 ・新大学院のウェブページについて、従来個別に制作していたデザインを統一して新設したほか、動画コンテンツを整理し一元的に閲覧できるページを設けた。 | ○ |
| | | | 82 | 定量的指標 | ①アB…プレスリリースの件数(第4期中期目標期間中の平均件数で、年間160件以上) [第4期平均160件以上] | [令和4年度:160件] <ul style="list-style-type: none"> ・内容別のプレスリリース件数は以下のとおりであり、教育・研究関係のプレスリリース件数は全体の55%と最も多く、各教員の教育・研究成果の情報発信に係る意識が定着したものと考えられる。 (内容別リリース件数) 【行事/イベント】52件(32.5%)【教育/研究】88件(55.0%)【大学運営(入試情報含む)】20件(12.5%) | ○ |
| | | | 83 | 定量的指標 | ①アC…公式ウェブサイトへのアクセス数(第4期中期目標期間中の平均数で、年間900万アクセス以上) [第4期平均9,000千件以上] | [令和4年度:8,660千件] <ul style="list-style-type: none"> ・動画掲載ページ(動画でみる富山大学)の整備、英語版動画コンテンツの新規制作(Welcome to the University of Toyama)、ステークホルダーのニーズを把握するため、学生との懇談機会を設けたほか、学外における各種団体等の会議に積極的参画等に取り組んだが、総アクセス数は8,660千件に留まり、R4年度の計画値を達成できなかった。 次年度以降は、引き続き、受験生向け学部紹介等の動画コンテンツの充実を図るほか、メールマガジンや広報誌等のQRコードを活用した公式ウェブサイトへの誘導について強化を図る予定である。 | △ |

| | | | | | | | |
|--|--|---|----|-------|--|---|---|
| | | ①イ ステークホルダーとの間で、定期的な対話・意見聴取を実施し、その結果をウェブサイト等で公表する。 | 84 | 定性的指標 | ①イA…ステークホルダーとの対話の実施状況(複数のステークホルダーと大学が定期的に対話し、その状況を毎年1回、ウェブサイト等で公表) | 「富山県・富山大学連携推進会議」を開催し、会議内容について、NHK富山、富山テレビ、北日本新聞、富山新聞、読売新聞、及び文教ニュースに大学公式ウェブサイト等で公開した。 また「学生と学長との対話」をR4年12月に、ホームカミングデーをR4年10月に開催したほか、公開講座、生涯学習ワークショップ等でアンケート実施することで、本学への意見・要望等を収集した。 | ○ |
| | | ①ウ フォーラム等イベントや公開講座等実施時に本学に対する意見等を聴くアンケートを実施し、大学運営に活用する。 | 85 | 定性的指標 | ①ウA…大学に対する意見等の活用状況(毎年度、アンケート結果を学長・理事を構成員とする会議で共有し、必要な対応を実施) | 生涯学習部門各種取組において受講者アンケートを実施し、その結果を学長・理事が構成員である生涯学習推進懇話会(R5.3.8開催)にて共有したところ、今後受講したい講座内容や運営についての要望があったため、ニーズに沿うことができるよう、検討を行った。 | ○ |

V その他業務運営に関する重要事項

中期目標【17】 AI・RPA(Robotic Process Automation)をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。②

| 中期計画 | | | | | 評価指標 | 令和4年度の進捗状況 | 自己評価 |
|-----------------------------------|---|---|-----|-------|---|---|------|
| No. | 実現・達成を目指す姿や水準 | 実現・達成するための方策 | No. | 種別 | | | |
| 17-1 効果的・効率的な業務の実施 | ① 教育研究及び事務に関わる業務の、効果的・効率的な運営のため、デジタル化・オンライン化とシステムの高度化、データ活用等のDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進する。 | ①ア 教育研究及び事務に関する業務のDX(デジタルトランスフォーメーション)化を行うため、全学推進体制を構築するとともに、実施計画を策定し、実行する。 | 86 | 定性的指標 | ①アA…実施計画の進捗状況(実施体制の構築及び計画の策定、実施計画に基づく取組の達成(毎年度状況を確認)) | ・大学改革推進本部会議の下に、大学DX推進部会を立ち上げた。 ・大学DX推進部会の下部組織として教育・研究・事務の各DXセクションを設置し、第4期中期計画期間中における大学DX推進に関する取組項目について、各DXセクションごとに検討のうえ設定し、富山大学DX推進計画工程表を策定した。 ・富山大学におけるDXの定義、基本方針を策定し、ウェブサイトに公開した。 | ○ |
| 17-2 デジタル・キャンパスを推進する上での情報セキュリティ対策 | | | 87 | 定性的指標 | ①アA…「サイバーセキュリティ対策等基本計画」の指標の達成状況(3年毎に実施する評価時に、指標を全て達成) | 富山大学サイバーセキュリティ対策等基本計画並びに富山大学サイバーセキュリティ対策等基本計画工程表に記載した事項を実施した。 特に多要素認証の一部先行導入等によりセキュリティ強化が図られた。 | ○ |

2023/11/22